

国土地理院コンプライアンス・アドバイザー委員会議事概要

1. 日 時 令和3年3月11日(木)
 2. 場 所 国土地理院 大会議室
 3. 委 員 委員長 出口 正義 筑波大学名誉教授
 委員長代理 松沼 和弘 弁護士
 委 員 平沢 照雄 筑波大学人文学系教授

4. 議事概要

(1) 審議事項

- ① 令和2年度国土地理院コンプライアンス報告書(案)について
 ② 令和3年度国土地理院コンプライアンス推進計画(案)について

(2) 委員からの主な意見

意 見 ・ 質 問	回 答
<p>① 令和2年度国土地理院コンプライアンス報告書(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスに関する情報提供について適宜事例を紹介する取組は良い。マスコミで話題となっている事案は即座に院内に事例として取り上げられるのか。 ・事例紹介の資料は院内にどのように活用されるのか。 ・管理職層はコンプライアンス・ミーティングの取組に参加しているのか。 ・コロナの関係で担当がテレワークの場合、適切な対応が行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理規程に則った行動を徹底するよう周知したところであるが、状況が明らかになった時点で事例として紹介するか検討する。 ・幹部会議で紹介後、下部組織の会議で紹介し、同時にイントラネットに掲載して常時閲覧できるようにしている。 ・ミーティングやセルフチェックについても全員参加している。 ・テレワーク時の事務の引き継ぎを工夫し、適切に対応できるようにしている。
<p>② 令和3年度国土地理院コンプライアンス推進計画(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス意識の向上について、新たに文言を追加したことは良い。 ・リモート機器等を活用し、更なる負担軽減を検討してはいかがか。 ・対面での活動がなくなると一般的な傾向としてコンプライアンスの意識が低下する。 ・コンプライアンスの意識向上のためにも仕事に誇りを持てる組織作りが大切である。また、従来のものをベースにさらに一層発展させていく際には、コロナ後の組織運営を見つめながら行われたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き検討する。 ・テレワーク時のコンプライアンス確保や対面でしか得られない情報をどう補うのか今後更に検討していく。